TRIODE ELECTRON GUN WITH GRAPHITE FOIL GRID

Toshikazu KURIHARA and Hitoshi KOBAYASHI Photon Factory, National Lab. for High Energy Physics (KEK) Oho 1-1, Tsukuba, Ibaraki 305, Japan

ABSTRACT

We developed the diode gun with lanthanum hexaboride (LaB6) cathode as a high brightness electron source for electron linacs. The emittance was measured by our accurate pepper-pot technique with good results. We went one step further by developing a triode gun using a LaB6 cathode which was used 20 years ago in electron microscopes. This material is chemically very active at the operation temperatures required for high density electron emission, but attacks most materials adjacent to it. For linac pulse mode operation a non interacting grid is essential near the cathode. Recently we developed a novel mesh grid made of graphite foil to prevent such chemical reaction. Even at the operating temperatures of about 1873 K, this grid maintains its geometrical accuracy, owing to the thermal characteristics of graphite materials.

グラファイトフォイルによるグリッドを用いた三極管電子銃

1、はじめに

我々は高輝度電子源、ならびに低エミッタンス ビームの計測方法の開発[1-4]を行ってきた。また 電子放射材料として 優れた特性をもつLaB₆に注目 し、これをカソードを用いた2極管構造の電子銃 を開発し、そのエミッタンスを計測[5]してきた。 今回、電子銃として3極管構造とするために、グ ラファイトフォイルをグリッド材として用い、カ ソードから蒸発する LaB₆とグリッドとの反応を防 ぐこととした。グラファイトの特性から、高温の 動作温度でもグリッドの構造は安定であり、位置 精度等を上げることができた。

2、グラファイトの特性

高輝度電子銃のための設計を行い、これまでに バリウム含侵型タングステンをカソードとして用 いた2極管構造の電子銃を試作してそのエミッタ ンスを計測してきた。さらにカソード表面の状態 がビームのエミッタンスに与える影響が熱初速度 によるものより、大きいことを計算、および実験 上からも確認した[3]。したがって単結晶カソード による電子銃が加速器用電子銃としても期待され る。

LaB₆がカソード材として優れていることは1950 年代から明かにされてきていたが、動作温度が約 1800Kと高温であることから Broers[6], Vogel[7]の 研究をまって分析電子顕微鏡用として実用化され るようになった。しかしながら、加速器用として はカソード面積の大型化(例えばVogelのカソード のチップの曲率半径は15µm)、パルス動作のため の3極管化といった問題を解決する必要がある。 我々は単結晶カソードとして LaB₆を取り上げ2極 管電子銃とし、計測によりそのエミッタンスの優 れた点を明かにしてきた。したがって LaB₆カソー ドを加速器用電子銃に使えるものとしようという のが今回の試作に至った動機である。

動作温度での LaB₆の問題点はその蒸発およびカ ソード周辺の高融点金属との反応である。 LaB₆の 高温での蒸発速度は 0.07µm/h (at 1823K) となる。

-76 -

表.1 線熱膨張率[8]

物 質	温度 [K]	線熱膨張率 [10 ⁻⁶ deg ⁻¹]	物質	温度 [K]	線熱膨張率 [10 ⁻⁶ deg ⁻¹]	物質	温度 [K]	線熱膨張率 [10 ⁻⁶ deg ⁻¹]
Ag	293	19.0	T. ∫ ∥ C	293	-9.6	cı ∫ // c	293	16.2
Al	293	23.0	$^{1n} \setminus \perp c$	293	52.9	SD \ L c	293	8.4
110 J 11 c	293	5.6	InSb	273	4.8	Si	293	2.5
$A_{12}O_3 \downarrow \bot c$	293	5.0	Ir	293	6.5	S:0 (+B) / C	293	7.4
Ar	75	590	K	293	82	^{3102(小面)} (上c	293	13.6
Au	293	14.2	KCI	293	37.1	SiO2(石英ガラス)	300	0.35
Be { // c	293	8.9	LiF	293	33.2	S=(++++) ∫ // C	293	32.6
Del⊥c	293	12.3	∫ // c	293	27.0	Sn(HE) \ Lc	293	16.5
BeO	293	6.5	Mg \⊥c	293	25.3	Ta	293	6.5
B; { // c	293	16.2	MgO	293	10.4	Ti	293	8.6
D ¹ (⊥c	293	11.7	Мо	293	5.0	$T_{i}O_{i}(\mu \neq \mu) \begin{cases} \#c \end{bmatrix}$	293	9.1
C(ダイヤモンド)	293	1.00	Na	300	69.6		293	7.1
C(7=7=1+) ("C	293	25.9	NaCl	293	39.7	TI	293	28.7
O() / / / / / / / / / / / / /	293	-1.2	(// a	323	120	W	293	4.5
Ca	293	22.1	NaNO2 { // b	323	60	V	293	7.8
Cd { // c	293	54.3	\ <i>\\c</i>	323	-4	7n { // c	293	64.3
Cu (L c	293	19.8	Ni	293	12.8	$ \perp c$	293	13.0
CAS { // c	313	4.0	Os	293	4.7	ZnS	273	6.3
Cue (⊥c	313	6.5	P	293	127	7r { // c	300	6.9
Co	293	13.7	РЬ	293	28.7		300	4.7
Cu	293	16.7	PbS	313	18.6	インバー	23~ 373	-1.5 - 2.0
Fe	293	11.8	Pd	293	11.6	マンガニン	293~	18 1
Ge	293	5.7	Pr	293	4.4	チネル	298~	12 5~14 5
// a	313	18.3	Pt	293	8.9	- 7 - 1	373 293~	13.3 -14.5
$Gd_2(MoO_4)_3 \{ \# b $	313	16.7	Rb	293	91	-/	373	13.0
(<i>"c</i>	313	-4.7	Rh	293	8.2	日金-20%ロジウム	773	9.6
H2O	273	55.8	S	293	70	ステンレススチール	293~ 373	10.0

↑ アノード



↓ カソード

図.1 グラファイトの結晶構造

表.2 2 次電子利得[9]

	δ"	V _m (V)		
Li	0.56	100		
Be	0. 53	200		
$C(\sqrt{2})$	1.0	300		
C(すす状)	0,45	500		
Cs	0.72	400		
Mg	0.95	300		
Ba	0. 83	400		
Al	0. 97	300		
Cu	1. 27	600		
Ag	1. 47	800		
Au	1.45	800		
Ni	1.3	500		
Mo	1.25	315		
W	1.4	630		
Be-Cu	7	600		
Ag-Mg	10	500		
Al-Mg	10-15	600		
Ni-Be	12	700		



図.2 グラファイトグリッド

3極管構造とした場合、カソード直前に位置す るグリッドにはこのうちの一部が付着しボロンが 拡散していくこととなる。したがってカソード周 辺の材料および構造から検討を行った。グラファ イトの構造は図.1のようになっている。炭素六員 環が連なる層状構造をもち、格子定数 a=2.456, c=6.696Åとなっている。1個のC原子は同一平面 内で正3角形の3個のC原子と共有結合しており、 C-Cは1.42A、上下の結合は van der Waals 結合に より、cの半分の3.35Åも離れている。融点は元素 中最高の3550℃である。物性はc軸方向に対し非 常に異方的である。比抵抗は面内で約4~7×10⁻⁵ Ωcm の金属性の電気伝導を、垂直方向では 10⁴ 倍 大きい半導性を示す。 線熱膨張率は表.1に示す ように // c 25.9×10⁻⁶(deg⁻¹) また ⊥c -1.2× 10⁻⁶(deg⁻¹) (293K) である。したがって通常グリッド 材料としてよく使われている高融点材料が動作温

度において膨張する傾向にあるのに対し、今回用 いたグラファイトは図のような方向で使用すれば、 グリッド面内は収縮する傾向にあるためグリッド を均一に張ることができ、高精度に等ポテンシャ ル面を作ることができると期待される。なお2次 電子利得については金属と比較しても1.0と低い。 (表.2)

3、グラファイトグリッド付き電子銃の試作 試作したグラファイトグリッドを図.2に示す。 125µmのグラファイトフォイルを円盤状に加工後、 放電加工によりその中心部に直径6mmにわたって 200µm 間隔で40µmのメッシュを作成した。こう して作成したグリッドをカソードの前方300µmの 位置にスペーサを用いて固定した。電子銃組み立 て後、2極管電子銃と同様の過程を経て実験を行 いつつある。pepper pot 法によるエミッタンス測定 を行いつつあるが、以前、金属グリッドを用いて 測定したときに見られたグリッドメッシュ全体の 熱による歪みからくる電子ビームの乱れは観測さ れなかった。なお、現在グリッドメッシュのレン ズ効果によるメッシュ内部の電子ビームの歪みを 測定しつつある。 4、まとめ

高輝度電子銃、特に LaB₆をカソードとした3極 管電子銃の開発のためにグラファイトフォイルを 用いてグリッドメッシュを作製した。

動作温度(1823K)でも化学的に安定であり、LaB₆ カソード用グリッドとしてもっとも有望である。

層状構造をもつため線熱膨張率も// $c \ge \bot c \ge c$ は非常に異方性があり、特に $\bot c \sqcup -1.2 \times 10^{-6} (deg^{-1})$ (293K)と負の値をもつためグリッドメッシュの歪 みは起こりにくい特性をもつ。

参考文献

[1] Y.Yamazaki et al., "Design and Manufacture of High Brightness Electron Gun", Proc.15th Linear Accelerator Meeting in Japan 1990, p82-84

[2] Y.Yamazaki et al., "Development of Emittance Measurement for an Electron Gun", Proc.16th Linear Accelerator Meeting in Japan 1991, p278-280

[3] Y.Yamazaki et al., "Development of High-Brightness Electron Gun", Proc.17th Linear Accelerator Meeting in Japan 1992, p22-24

[4] Y.Yamazaki et al., "High-precision pepper-pot technique for a low-emittance electron beam" Nucl. Instr. and Meth. A322 (1992) 139.

[5] T. Kurihara et al., "Characteristics of the Single-crystal Lanthanum Hexaboride Cathode Electron Gun", Proc.17th Linear Accelerator Meeting in Japan 1992, p25-27

[6] A.N. Broers, "Electron Gun using Long-Life Lanthanum Hexaboride Cathode", J. Appl. Phys. 38, (1967) 1991

[7] S.F. Vogel, "Pyrolytic Graphite in the Design of a Compact Inert Heater of a Lanthanum Hexaboride Cathode", Rev. Sci. Instrum. 41 (1970) 585

[8] 新版 物理定数表 朝倉書店(1978)

[9] 日本表面科学会編 表面科学の基礎と応用 NTS (1992)